

INTEGRATED REPORTING <IR>

IIRC ニュースレター 10月号

統合報告が 必要だという 新たなエビデンス

この数週間で、投資家が統合報告を求めているというエビデンスがリリースされ、ビジネスリーダーは統合報告を促進するとともに、統合報告を実施した企業は、実質的な利益を得ているという研究結果が報告された。

企業の大半は統合報告を採用する際、市場パフォーマンスの観点から有益であることを確認するために、このようなエビデンスを必要としている。このニュースレターでは、当件に関するここ数週間にリリースされた研究やレポート、エビデンスを紹介している。

11月10日に、
英国ロンドンで
開催される
2015 Official
Integrated Reporting
Convention
に参加できる
最後の機会

スピーチ：

責任ある将来を
形づくるための
重要な視野

IIRC CEO
Paul Druckman

投資家は さらに質の良い情報や 統合報告に関する 情報を要求

オランダの機関投資家団体 Eumedion は、企業に対する統合報告書の発行を求める投資家の声の増加を受け、コーポレートガバナンスの分野において、機関投資家を代表し、オランダの上場企業に対して統合報告を推進するよう求める文書を送付した。EY (アーンスト・アンド・ヤング) による投資家のニーズとトレンドについての研究では、全ての地域

新しいレポートは
統合報告が、
グローバルな動向に
添っていると
表している

国連環境計画
'The Financial
System We Need'

セグメントにて投資家の統合報告書の活用が増加していることを裏付けている。同研究では、投資家が財務情報以外の指標も投資の判断材料とし、今まで以上にそれらの情報から見出した価値による意思決定を行っていることを支持している。

調査では、ポートフォリオマネージャー、株式アナリスト、最高投資責任者、取締役を含む 200 以上の機関投資家が、「多くの企業がまだ投資家の期待値に達していない」と判断したことを明らかにしている。また、投資家は統合報告書の恩恵に関心を強めており、大多数が統合報告書は“必要”または“重要”であると回答した。

IIRC では、統合報告が主流になると確信し、さらに投資家コミュニティから強い支持を得ることで、投資家が戦略、ガバナンス、業績と見通しに関する情報を欲していることを示すことができると考えてきた。そして今回の調査により、投資家からの支持の存在が明らかに示された。つまりこの調査結果は、企業の資産による長期的な価値創造のしくみこそが投資判断の重要な基準になっていくことを企業側が認識する必要性を示している。

Eumedion は、統合報告を含む 3 つの優先事項を強調しており、それに関する書状をオランダの上場企業全てに送っている。Eumedion はオランダ上場企業の統合報告の重要性を近年訴えており、統合報告書を使用し、「2016 年以降、全ての企業が持続的、もしくは新たに統合報告に向けての道筋をつけていくことを奨励している。」Eumedion は三分の一以上のオランダの上場企業が統合報告書の発行を検討していると推測している。

IFAC の 統合思考に関する ビジョン

国際会計士連盟 (IFAC) は、会計士の役割に関するビジョンを設定しており、それにより統合思考を支援することで、

資本配賦、企業行動、財務の安定と持続的な発展の精度を高めていくことを支援していく。IFAC は、会計士が統合思考を活用することで企業行動を変化させ、最終的にビジネスの活性化につなげていくことができると述べた。

IFAC は、‘Creating Value with Integrated Thinking: The Role of Professional Accountants’ (統合思考による価値創造—会計士の担う役割) を発行しており、統合報告書発行の予定の有無にかかわらず、官民と働く会計士がどのように統合思考を、彼らの企業の中で推進していくかが記載されている。

IFAC の CEO である Faye Choudhury 氏は、以下のよう
に述べている。「統合報告はグローバルに推進力をつけて
おり、企業の長期的な価値創造に対する考え方を変えつつ
ある。最終的に企業行動を変え、活発な企業をつくり、企
業と政府に対するさらなる信頼を築く源は統合思考にある。
ビジネスパートナーとして企業のリーダーシップや判断の支
援を行う会計士は、統合思考を用いることで、財務部や経
理部を超えたエンゲージメントを推進し、短期、中期、長
期的に価値を創造していく活発な企業の創造を促進するこ
とができる。」

CEO と CFO は 現状の報告に 不満を抱く

全世界の CEO、CFO、COO を対象とした[アンケート](#)で、
回答者 350 人強のうち、現状の報告が投資家やその他の
ステークホルダーのニーズに見合った情報提供をしている自
信があると回答したのは、たった 25% だった。

財務と非財務情報の結合性が企業リスクを特定・管理する
のに有効であるという回答は 91%、前向きな長期的なパ
フォーマンス予測を示すのに役立つという回答は 89% で
あった。エグゼクティブは、報告が内部的・外部的情報のニ
ーズを満たすには、第一にコミュニケーション戦略とビジネス

モデルに注目すべきであると感じている。

このアンケートでは、統合報告に関する高いレベルの関心を示しており、近い将来、「統合報告」に向けて動いていくことを表している。28%の企業は、統合報告という単語を使用していないものの、様々な状態で統合報告をプロセスに導入していると示している。

企業報告の進化は、取締役会の支援に大いに依存しており、推進力の維持はこの支援にかかっている。これらのアンケートによる見識は、経営幹部レベルが現状の企業報告に満足しておらず、彼らの価値創造のストーリーをより効率的に伝えるために、企業報告を発展させていくことを表している。

日本における 統合報告の動向

KPMG による報告では、142 社が統合報告書を 2014 年に日本で発行した。KPMG ジャパンの副理事長 高橋勉氏は、「企業が彼らの事業活動を客観的に説明し、それを効率的に報告するため励んでいることが見受けられる」と話した。

「コーポレートガバナンス・コードの実施とともに、日本企業は『考える力』を表すことを期待されている。そして内部的・外部的に彼らの考え方を発信し、様々なステークホルダーに対する価値創造を可能とするプロセスを構築すべきである。」

この調査結果によれば、これらの 142 の企業は統合報告を中核においており、レポートの 50%が 60 ページ以下の簡潔性を意識していることを表している。しかしビジネスモデルを記載しているのはたった 42%の企業のみであるなど、統合報告書を発展させるためにはまだ課題は残っている。

日本の大手企業の多くが、統合報告への移行の価値を見出したことは明白であり、また次期のレポートでは、追随する多くの企業の参加が予想される。日本における次の課題は、

レポートの質の向上であり、そのことによる企業と投資家のよりよいコミュニケーションの恩恵を日本市場が最大限に活用することである。

英国において、 現存する規定と 統合報告は整合

PwCとDeloitteは今年、英国におけるFTSE企業の企業報告を分析した報告書を発行した。ジャーナリストのRobert Bruce氏のコメントが記載されているDeloitteの英国の[アニュアルレポートに関する調査](#)では、投資家は、企業にアニュアルレポートを準備する際にIIRCの原則を採用してほしいとの意見があることを示した。この調査は、「国際統合報告フレームワーク」の効率的な報告に対する提案と、ベストプラクティスとして現存する英国のストラテジックレポートにおける要求事項とで、クロスオーバーが顕著であることを示している。

英国のような国では、企業報告の基準はすでに先進的であり、「国際統合報告フレームワーク」が要求していることと、企業がすでに制作しているものが大幅に重複していることが分かっている。

Bruce氏は、[最新の記事](#)で、この年一回の調査で、報告することから考えることに変化していると述べた。すでに先進的な報告を行っている国では、統合報告の重要性は報告のプロセスによって、全社での内部的な利益が生まれている。

PwCは、英国におけるFTSE 350の報告の状況を踏まえた報告書を発行しており、[レポートを通じて独自のストーリーを伝える機会](#)について概説している。

企業報告の未来

IIRC は、[The Fédération des Experts Comptables Européens \(FEE\)](#) による、論文とその目的—企業報告の変化というダイナミクスの中で新たな推進力を提供すること—を歓迎している。報告は 21 世紀のビジネスニーズに合うように進化していく必要があり、財務資本提供者やその他のステークホルダーに関連する報告を引き続き行っていくためのシステムの変化が必要である。

この報告書を歓迎するにあたり、IIRC は FEE との協働のもと、今日の市場ニーズにあう、統合報告を ‘fit for purpose’ (目的に適った) 報告制度の創造という役割を担っていくことを誓約する。

私たちは、FEE が発行したこの論文では、企業報告の変化の必要性に関する説得力のある分析が提供されていると信じている。この論文の核心には、新しく、興味深いコンセプトである “core and more” がある。事実、私たちは統合報告がすでに報告モデルの “core” 部分を達成し、企業報告の基盤にいる卓越した企業や支持者のビジョンを実現化していると考えている。

この論文では、この情報を実証するには、技術革新が “more” の要素を支え、“core” レポートと一貫していることを主張している。我々は、このコンセプトこそ包括的な報告に向けての車輪となると信じており、これによりビジネスとステークホルダーが求める効率性と簡潔性を果たすと考えている。「統合報告テクノロジー・イニシアティブ」は、特に統合報告の全世界的な採用に向けて、技術が企業報告における新たなトレンドをどのように支えているのかを企業に向けて発信している。参加企業は、技術がどのようにレポート制作と生産バリューチェーンの両面において適応できるかについて、統合報告より深い理解を得ている。統合報告プロセスの規模を拡大し、さらに共同化で効率化を図りたいと望んでいる企業の使用を目的に、統合報告を支援する技術の青写真は今年の終わりにリリースされる。

FEE と同様、我々は変化のドライバーとして、実験と革新が重要だと考えている。世界で 1,000 以上の企業が統合報

告を基盤として活用している。この論文における分析が、全ての側面での価値創造に関する報告へのさらなる取り組みと、企業間で統合思考を広げることに関わると確信している。我々は、これにより先進的な取り組みの実績を作り、報告の新たなモデルを構築できると信じている。



[Website](#) [Twitter](#) [LinkedIn](#) [YouTube](#)

Contact: juliet.markham@theiirc.org

Copyright © 2015 International Integrated Reporting Council, All rights reserved.
[unsubscribe from this list](#) [update subscription preferences](#)